

# 厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和3年12月13日(月)  
15時40分開会 16時11分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：口田邦男(欠席) 副委員長：山下清美  
委員：深沼達生、川上 均、中河つる子、高橋政悦  
議長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦、次長兼総務係長：宇都宮学
- 5 議 件  
  
(1) 議会費に係る新年度予算について  
・道外の市町村行政調査について  
(2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

副委員長（山下清美）：本会議、全員協議会お疲れのところ申し訳ないが集まっていた。只今より、厚生文教常任委員会を開会する。既に説明のとおり口田委員長については、今入院されているということで欠席ということで、副委員長が代わりをさせていただく。

(1) 議会費に係る新年度予算について  
・道外の市町村行政調査について

副委員長：前回、道外の市町村行政調査については、厚生文教常任委員会としては任期中の調査課題を明確にした中で実施をして、その成果を後の議会活動に生かすこととして予算化を図ることを前回確認しているところである。その中で、著しい人口の増減のあった自治体、その教育、福祉、幼保の行政サービスの提供の対応について調査をテーマに考えていたところであるが、総人口の推移、これらを見てみると増になった部分は見当たらず一貫して減少している自治体である。そういった部分で再度調査テーマと視察先についてどのようにしていったらいいか相談をしたいと思い、今回集まっていた。増減した部分で、施設だとか従事者部分をどうやっていったのかという部分も調査の検討の項目だと思う。行程が崩れたので、改めてどういった課題をもって調査をするか、調査をする町村についてどうしたらいいかということで、提案をさせていただく。いろいろな部分で、前回、活性化的人口増を目的に政策をやっている町村ということで、事務局にはご苦労かけたが、いろいろな部分ピックアップをいただいた。ピックアップした町について事務局、調べた中で、説明いただければと思う。

田本局長：お配りした資料をご覧ください。只今、副委員長から説明があったように前回、議論をしていただいた徳島県の神山町については、町のホームページの方で内容を確認させていただいたところ、3枚目のところに出てきているが、人口動態の資料が載っていた。人口としては昭和30年の2万人をピークに平成元年までの5年毎の資料が出ていて平成元年以降毎年の数値ということで人口が出ています。人口の内、自然動態、社会動態の区分があり、自然動態については、一貫して減少し続けているところである。社会動態については、若干プラスに転じているところが何か所があるが、総人口としては先程、説明のあった通り、減り続けている。令和2年度は5,097人まで人口が減っているという状況であった。この状況について高橋委員に相談をし、高橋委員から変わるところで参考として長野県の下條村、こちらについては若者の定住促進の政策を打って出生率の上昇と共に人口の減少に向いているところであるが、こちらの部分については人口の増加、減少というのが1割ぐらいの割合で増減しているという状況であって当初お話ししていたところと環境は少し似ているのかと思う。もう一つ、和歌山県上富田町というところが、参考として提示いただいた部分で、こちらは一貫して人口が増加し続けている町ということでの紹介であった。今回、サンプルとして行程案を作った部分については、前回会議で愛知県豊橋市についての話題が出ていたところがあって豊橋市を1つの視察先とした場合については、前後の行程が可能な部分でいくと長野県下條村の方が現実的かとサンプルで作ったものである。和歌山県の上富田町については、行程のサンプル資料は作っていないが、町の状況内容等については、後ろのほうに付いている資料をご覧ください。行き先、テーマについて検討いただければと思う。資料の冊子2枚目のほうには、事務局次長のほうで視察の候補先ということで、いろいろ話題になっている自治体の部分をピックアップしたところである。全体の行程というところで組み立てはしていないが、これらについては見る限りそれほど、辺境のところはないのかと思う。組み立ては、いろいろ可能なのかと思う。以上、今回資料として提供させていただいたものである。最終的には、予算前に行程、テーマも固めてしまわなければならないところではないのかと思うが、ある程度テーマで視察先を検討して今の予算でこんな感じと確認していただければと思うので、ご協議をお願いします。

副委員長：只今、事務局から説明をいただいた。今回、いろいろな部分の下條村が参考になって、また、上富田町の2例が出されている。厚生文教常任委員会として行くとすれば、所管に係る部分を中心とした町づくりが人口の増減に繋がっているかどうかという部分の視点も重要になってくるかと思う。企業誘致がメインであれば、総務産業常任委員会の部分に関わってしまうので、メインができれば所管に係る部分が調査するには相応しいと考える。何か意見あるか。

桜井議長：渋沢史料館というのは、寄るのは厳しいのか。

田本局長：渋沢史料館自体が午前10時から午後16時までと会館時間が短い。午後に現地入りすれば午前中に時間を確保すれば見られるという状況である。逆算で今、十勝清水に18時に到着ということで逆算して10時から12時に渋沢史料館となっているが、空港に入って13時過ぎに食事をするかというイメージぐらい窮屈な日程になっている。前日のこれでいくと、16時半位に東京都北区に入って区役所の方からの説明を1時間程度受けられるのかどうかというくらいしか組めないのかと。下條村については公共交通も全く期待できない場所なので、中部国際空港からレンタカーを借りて3日目、豊橋駅でレンタカーを乗り捨ててという感じができれば、こういう日程かと思う。現状では、こちらで勝手に組み立てている部分であるので、実際に相手に打診をして受ける場合はどうかというところもある。これで決まったということにはならない。

桜井議長：打診をしてもいいのか。

田本局長：今の段階ではまだ、予算決まってからでないで、テーマとしてどういったイメージの町の項目の調査をするかというところ。

副委員長：川上委員。

川上委員：神山町から変わったということで、僕は神山町も面白いと思っている。今、別のところということで見させてもらって、和歌山県上富田町、教育という町をとというのはなかなかないかと今までの中では、常任委員会の中では教育も含めてなので、面白い発想だと見させてもらった。視察の上ではということでは面白いかと場所も和歌山なので、移動するにもどうなのか分からないかと思った。

副委員長：私たちの所管としては、教育を中心とした町づくりをしたところがどうかという提案が川上委員からあった。手前にある下條村については、住宅政策を中心にした町づくりとなっているので、川上委員が先程言ったように教育という部分がメインとなっている和歌山県上富田町という部分も考えられるかなという気がする。事務局長この町はどのような感じか。

田本局長：5月1日に公共交通を使った場合に、十勝清水を朝9時半に出て19時17分に現地到着という感じ。帯広から羽田、白浜空港と乗り過ごして白浜からバスで。

副委員長：中部に入っか。

田本局長：豊橋から朝7時55分に出れば13時13分に着くと、半日である。

副委員長：メインで言った部分を見ると和歌山県に行くとなれば渋沢記念館は難しいかなという気はする。豊橋から入って翌日、和歌山に入るというルートになるのかなという気がする。川上委員からは第1案として、今挙げられたという形でよいか。

田本局長：神山町を想定して20万円ちょっとの計算をしている。上富田町に上條村の部分で計算すると宿泊とかにだいたい1人、14~15万円位プラス全体でレンタカーという感じなので、金額的には多くなる、少なくなるというのはなさそう。どういったテーマを設定して見るかという感じでまとめていった方がいい。

副委員長：只今、事務局長の方から予算的には、今、財政の方に提案しているのが20万円程度であるので、それから北の方になれば、3泊4日の範囲であれば予算の範囲で収まりそうという話があった。そして、川上委員からは教育でメインとした町づくりをして人口が増えた町を見たらどうかという話があった。ルートとかは、後々事務局と相談をしながら、また設定はできるかと思う。ほかの委員、意見あるか。総務産業常任委員会とタイアップしていくのであれば、いろいろな視察先もいろいろな部分で絡めていけるのかなと思うが、総務産業常任委員会のほうでは今回、見送るという形になっているのでやはり厚生文教常任委員会がメインのテーマを持ちながら研修していく必要があるではと考える。

高橋委員：これら資料見ている限り、やはり上富田町のほうが厚生文教常任委員会としては、テーマ等々、清水町の直近の流れからいって大きな施設、体育館を建てたりすること、また、加えてそれらを、違う視点で運用していくこと等々もこの流れ的にいくと上富田町が経験していることのように感じるし、実際9千何百人から1万4千、5千人も増えてその体制の構築、維持等々、学ぶところは沢山あるだろうし、イメージ的に最初は農業の町ということでやっていて頭打ちになったところで、次、商工業も加味しようとして企業誘致をやったけれども、それではまかり通らずいろいろな手を打ちながら毎年、毎年増えていったのだろうけれども、全国多い中で、人口が増える町というのは大きな働き場の近隣が住宅地というか増えている中、いろいろな手を打ってやっている町ということでいろいろな所を見るよりはここで、とことんいろいろな所、いろいろな考え方を学んでくるというか視察してくるのも悪くないと思う。実際の所、ここに行ってもう1つ、豊橋でというのが、行程としても1カ所2時間位やるよりはとことん付き合ってもらいたいという気がする。上富

田町のいろいろな人の話を聞いて学んでいきたいと思う。

副委員長：今、清水町におかれている現状においても体育館建設とか課題も抱えている中で、教育を中心とした町づくり、これを変貌させていった町としてはやはり学ぶべきところがあるのではないかという高橋委員から話があって、一般的な研修、時間よりはしっかりとここで、相手側には申し訳ないがいろいろな時間をいただいてしっかりといろいろな部分の町づくりについて学んでどうか。農業の町から教育の町へということで、清水町も今、農産工業の町ということでやっているの、それをメインとしながらも教育の町、そういった部分も和歌山県上富田町ではやっていた。それが今も人口が増えて、更に今、現在、国調の人口が分からないが、これを見ると増えていて続けて増えているという状況が伺える。相手方の受け入れる先の許すかぎりの時間をもっていろいろなところを見せてもらったり、できれば3時間に限らずいろいろなところを見させてもらえればという意見でよろしいか。

(はいとの声あり)

副委員長：高橋委員かそういった意見をいただいた。

ほかに意見あるか。

順番に聞いていっていいか。中河委員お願いします。

中河委員：私もこれでいいと思う。和歌山県上富田町、見た限りではこれからの清水にも役に立つと思うので、高橋委員と同じ意見でよい。

副委員長：深沼委員、いかがか。

深沼委員：元々、農業の町ということだったのが、企業誘致することによってこれだけの人口が増えるというのはこんなにやはり労働者が増えることによって人口が増えたということだと思う。やはり、働く場所があってこそだと思うので、企業誘致と後、別な何かがあるのか。また、それに関して町の教育自体が今までと変わった部分があるのかということも聞いてみたいと思う。

副委員長：深沼委員から工業誘致という話があるが、高橋委員から工業誘致で人口がなかなか増えなくて、更に、教育の町ということに力をおいて変貌させたという話があった。途中経過の企業誘致の話もどういった部分があったのかという話も聞けるのかと思う。改めて川上委員、今高橋委員から話があったがそういった方向で川上委員どうか。よろしいか。

(はいとの声あり)

副委員長：相手の許す時間になると思うが、できれば2時間に限らずいろいろな施設なり、いろいろな方々の話を聞くなり、できれば町の方の話を聞くなりどこまで協力を得られるか分からないが、そういった部分の範囲で、視察依頼をさせていただく方向でよろしいか。事務局、そのような視点でよいか。何か確認あるか。

田本局長：今の段階、打診するタイミングではないので。

副委員長：決定してからの話であるが、決定したら急いで進む形になるが、そういった形で厚生文教常任委員会は進むということで、議長よろしいか。

(よいとの声あり)

副委員長：私の視点は前回、協働参画の中で、福祉、教育を絡めた部分の協働参画をどう進めているのかという部分の視点を持ちながら視察をしていく。委員会としてのメインとしては、和歌山県、ここを教育の町づくりということなので、ここをメインにしながら行程のなかでサブとしてそちらのほうに向かっていく。ルートについては、事務局で割いていただいてどちらから行くか工夫しながらお願いしますということでまとめてよいか。

(よいとの声あり)

副委員長：お疲れのところ集まっていたいただき道外の行政視察調査については、この通り、予算の提案について進めたいと思う。

## (2) その他

副委員長そのほか、何かあるか。委員会として。よいか。

(よろしいの声あり)

副委員長：以上で、厚生文教常任委員会を終了させていただく。今日は、どうもありがとう。長い時間にわたり感謝する。

【閉会 16:11】